



設定した言語活動を通して育てたい力

○ 自分たちの夢について、積極的に伝え合うことができる。

表現力の育成

- ◇ 学年 第6 学年
- ◇ 単元名 Lesson 9 将来の夢を紹介しよう
- ◇ 本時の目標 自分たちの夢について積極的に尋ねたり答えたりする。
- ◇ 単元の展開 (2 時間目/全4 時間)

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）												
1 本時のめあてを知る。 <div>自分たちの将来の夢について、積極的に尋ねたり、答えたりしよう。</div>		<div>本時のメイン活動で児童が表現する内容を予想して、児童に慣れ親しませる語彙・表現等を指導しましょう。</div> <div>★ピクチャーカードやカルタでは、英語ノートに示されている職業だけではなく本学級の児童が将来就きたい職業を扱います。これらを繰り返し聞く活動、言う活動を行うことによって、本時のメイン活動である「6の学習活動」において、<u>自分の就きたい職業について話すことと、相手の就きたい職業について聞いて理解することが簡単にできるようになります。</u></div>												
2 前時の復習をする。 ○ 職業名 What's this? をする。	<div>◇職業名ピクチャーカードを用いて、その一部を少しずつ見せたり、一瞬だけ見せたりするなどして、職業名を答えさせる。</div> <div>T: What's this? S: Doctor.</div> <div>◇ピクチャーカードの職業名は、本学級の児童が事前のアンケートで将来就きたいと回答したものであることを伝え、意欲を高める。</div> <div>◇職業名カルタをグループに配り、教師や児童が職業名を言い、カルタ取りゲームを行わせる。</div>													
3 カルタ取りゲームをする。														
4 Who am I?クイズをする。	<div>◇本校の先生の小学校6年生の時の「将来の夢」を順に聞かせ、誰の夢かを考えて答えさせる。</div> <div>S: What do you want to be? T: I want to be a singer. I like music. I like songs. I want to be a singer. Who am I? S: Tanaka sensei. 理由は、田中先生はいつも、「私は歌が好き」と言っているからです。</div> <div>◇ピクチャーカードを示し、尋ねる。</div> <table><thead><tr><th>Japan</th><th>America</th></tr></thead><tbody><tr><td>1 professional sports player (プロスポーツ選手)</td><td>1 teacher (教師)</td></tr><tr><td>2 pastry chef (パティシエ)</td><td>2 doctor (医師)</td></tr><tr><td>3 nursery school teacher (保育士)</td><td>3 lawyer (弁護士)</td></tr><tr><td>4 fashion designer (ファッションデザイナー)</td><td>4 professional sports player (プロスポーツ選手)</td></tr><tr><td>5 pharmacist (薬剤師)</td><td>5 scientist (科学者)</td></tr></tbody></table> <div>日本 (HP:「13歳のハローワーク」 H23年12月) アメリカ (HP: CNN “Teen dreams: Top 10 career choices” H17年5月)</div> <div>◇活動前に、インタビューシートに書かれている職業の中から、ベスト5を予想し記入させておく。</div> <div>◇どんな職業に就きたいかを尋ね、相手の就きたい職業を聞き取って、シートに記入するよう指示する。</div> <div>◇クラスの状況が分かるようにできるだけ全員からインタビューするように指示する。</div> <div>◆やりとりの仕方に困った児童に対応できるようヘルプコーナーを設ける。</div>	Japan	America	1 professional sports player (プロスポーツ選手)	1 teacher (教師)	2 pastry chef (パティシエ)	2 doctor (医師)	3 nursery school teacher (保育士)	3 lawyer (弁護士)	4 fashion designer (ファッションデザイナー)	4 professional sports player (プロスポーツ選手)	5 pharmacist (薬剤師)	5 scientist (科学者)	<div>活動では、児童にとって身近な題材を取り上げましょう。</div> <div>★先生や友達、日本やアメリカの同世代の子どもなど、児童にとって身近な人やもの、興味・関心のあることを取り上げることによって、積極的に尋ねたり、答えたりすることができるようになります。</div>
Japan	America													
1 professional sports player (プロスポーツ選手)	1 teacher (教師)													
2 pastry chef (パティシエ)	2 doctor (医師)													
3 nursery school teacher (保育士)	3 lawyer (弁護士)													
4 fashion designer (ファッションデザイナー)	4 professional sports player (プロスポーツ選手)													
5 pharmacist (薬剤師)	5 scientist (科学者)													
5 ①日本の13歳の子ども、②アメリカの10代の子どもに人気のある職業ベスト5を予想して答える。 <div><div><div>America</div></div><div>1</div><div>(表側)</div><div><div>teacher</div></div><div>3x5</div><div>(裏側)</div></div>														
6 自分のクラスで人気のある職業ベスト5を予想したあとで、インタビュー活動をする。		<div>・自分たちの夢について積極的に尋ねたり答えたりしている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕（行動観察、振り返りカード点検）</div>												
7 本時の活動を振り返る。	<div>◇振り返りカードに記述させる。</div> <div>◇本時のめあてについてどうであったか、自分のことと友達のことについて振り返らせる。</div> <div>◇次時の意欲につながるように児童の頑張っていた姿を評価する。</div>													

設定した言語活動を通して育てたい力

思考力、表現力の育成

○ 「わたしの町」について、There is 構文を用いて、まとまりのある英文で表現することができる。

- ◇ 学年 第2 学年
- ◇ 単元名 Multi Plus 3 わたしの町
- ◇ 本時の目標 「わたしの町」について、There is (are) ~.の表現を用いて、5 文以上からなる内容的にまとまりのある文章を書くことができる。
- ◇ 単元の展開 (2 時間目／全3 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 本時の目標を確認する。</p> <p>○ 本時の目標を確認する。</p> <p>「わたしの町」について、There is (are) ~.の表現を用いて、5 文以上からなる内容的にまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>○ 目標達成のためのチェックポイントを確認する。</p> <p>2 既習事項を振り返る。</p> <p>○ 「わたしの町」についてのまとまりのある文章構成を確認する。</p> <p>○ 3 分間視写をする。</p> <p>・視写プリントにモデル文を正しく書き写す。</p> <p>・自分が書いた英文を音読する。</p> <p>3 まとまりのある文章を書く。</p> <p>○ 家庭学習で書いた自分の英文が、まとまりのある文章構成になっているかを確認する。</p>	<p>◇自己評価カードへ、記入させる。</p> <p>◇本時で書いた文章は、A L T やクラスに発表するものであることを伝え、見通しをもたせる。</p> <p>◇モデル文を掲示し、本時の目標達成のための、<u>チェックポイント3 点</u>を示し、確認させる。</p> <p>1 There is (are) ~.の表現を使っている。</p> <p>2 5 文以上からなる文章を書いている。</p> <p>3 まとまりのある文章構成になっている。</p> <p>◇前時に示した【文章構成】を黒板に示し確認する。</p> <p>①町の名前②地理的な情報③町の特徴 (上位概念) ④町の特徴 (下位概念) ⑤自分との関わり</p> <p>◇「わたしの町」のモデル文を視写させる。</p> <p>◇文と文のつながりを意識して、時間内により多くの英文を正確に写すように指示する。</p> <p>◇自分が視写した英文について、正しく書くことができているかをチェックさせた後、音読させる。</p>	<p>視写により、モデル文を複数回書かせて、書きたい文章をイメージ化させましょう。</p> <p>★まとまりのある文章を書かせる場合、モデル文とその文章構成を示すことは大切です。これらを示した後、すぐに自分の文章を書かせるのではなく、モデル文を複数回視写させ文章のイメージをもたせておくことによって、文章を書くことが容易になります。</p>
<p>○ 英文をグループ内で読み合い、記号とコメントを書き込む。</p> <p>①I live in ~.</p> <p>②It's in the west of Hiroshima.</p> <p>③It's famous for its sports.</p> <p>④There is a Horse Riding Club in my town.</p> <p>⑤I like animals and sports very much.</p> <p>○ ピア・フィードバックをもとに英文を書き直す。</p> <p>【書き直しの視点】</p> <p>A 具体例を付加する。</p> <p>For example, archery and golf.</p> <p>B 結びの表現を付加する。</p> <p>Please come and see us! (勧誘)</p> <p>For that reason, I love my town. (まとめ)</p>	<p>◇書き込みの記号を提示する。</p> <p>◎⇒参考・共感の情報 (分かりやすい情報)</p> <p>?⇒意味・具体例を問う情報 (相手への質問)</p> <p>◇<u>チェックポイント3 点</u>についてもチェックするよう指示する (チェック用紙をノートに貼付)。</p> <p>◇机間指導を行い、生徒の書き込んだコメントのうちよい例を紹介する。</p> <p>◇相互に検討した内容 (コメント) をもとに、英文を書き直させる。</p> <p>◇書き直しの視点を、生徒の書いた英文例とともに示し、ライティングノートにメモさせる。</p> <p>◆机間指導により、生徒のつまずきを把握し、他の生徒がその生徒に対して書いたコメントを活かす助言を行う。</p>	<p>英文を書かせるだけではなく、友達の書いた英文を読ませ、コメントを書かせましょう。</p> <p>★他の生徒の書いた文章を読ませ、自分にとって参考となる情報、他の生徒の文章をよりよくするための情報についてコメントを考えて書かせることによって、自分の文章を改善するための方法や表現を具体的に身に付けることができます。</p>
<p>○ 英文の発表練習をする。</p> <p>4 本時の振り返りと次時の確認をする。</p> <p>○ 本時の振り返りをする</p> <p>○ 次時の学習内容と家庭学習を確認する。</p> <p>○ あいさつをする。</p>	<p>◇次時に向けて、グループ内で発表練習させる。</p> <p>◇自己評価カードに<u>チェックポイント3 点</u>について振り返らせる。</p> <p>◇本時の目標に対する生徒の状況について、教師が評価のコメントを述べる。</p> <p>◇次時において、「わたしの町」を発表することを再確認する。それに向けて、A L T に分かりやすく伝えるための工夫ポイントを2 点以上ノートに書き、練習をしていくことを伝える。</p>	<p>・「わたしの町」について、There is 構文を活用し、情報を付加して、内容的にまとまりのある文章を5 文以上で書くことができる。〔外国語表現の能力〕 (ライティングノート)</p>

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 「聞くこと」や「読むこと」を通して得た知識や内容について、考えて書いたり話したりすることができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 題材名 The Secret of a Little Japanese Inn
- ◇ 本時の目標 聞いたり読んだりした内容について書いたり話したりする活動を通して、その内容について考え、理解し表現する力を身に付ける。
- ◇ 学習の流れ(4時間目／全7時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の目標を確認する。 2 復習：読みの練習 ○ 教科書を見ながらCDの後を追いかけるように音読する。 ○ 教科書を閉じてシャドーイングを行う。 3 要約 ○ 読んだ文章の内容について、英語で要約が作成できるようにメモを作る。(各自) ○ メモを見ながら、英語の要約を相手に伝える。(ペア)	読んだ内容について書いたり話したりする活動を通して、その内容について考え、理解し表現しよう。 ◇声がしっかり出るよう励ます。 ◇次のシャドーイング活動の準備として取り組ませる。 ◆個々の生徒の状況を確認し、英文を読む速度を調整する。 ◇完全な要約文を作成するのではなく、メモは語句のみとするよう指示をする。 ◇相手に伝わるように、分かりやすい語句を用いるように促す。	読んだ内容について、自分の英語でまとめて表現させましょう。 ★読んで理解した内容を自分の言葉でまとめます。相手に伝えるという状況を設定することにより、相手が理解できるように、表現を工夫することがポイントとなります。
4 書くこと ○ 文章の登場人物になったつもりで、文章中の一場面(例：外国からの旅行者に人気のある日本の小さな旅館で夜に)で交される会話を英語で考える。(ペア) ○ 会話文を練習する。 ○ 1～2ペア程度発表する。 ○ 発表後に、誰の会話であったかを聞いていた生徒に推測させる。	◇状況を理解し、それぞれの登場人物にあったせりふを考えさせる。 ◇まとまりのある会話文を作成させるため、「1人3つ以上のせりふを作成する」など量について指示を行う。 ◆考えが思い浮かばない場合には、英語で質問を行うなどの方法で、ヒントを与える。 ◇相手に向かって話すように姿勢や視線等注意する。 ◇相手に向かって話すように指示する。 ◇聞いている生徒たちに、会話が行われている場面や登場人物について推測するよう指示する。	読んだ内容を踏まえて、登場人物の立場でその人の考えを英語で表現できる。〔表現の能力〕(ワークシート) 文章中の情報を活用して、せりふを考えさせましょう。 ★会話文を作成するという活動を組み込むことにより、読んだ英文についての理解が深まります。
5 予測 ○ 次のPartにどのようなことが述べられているか考える。	◇まとまりのある文章として内容を理解するために、つながりを意識させる。 ◇次に何が書かれているかを考え、積極的に読むように促す。 ◆必要に応じて、これまでに読んだPartの内容を振り返るよう指示する。	